

平成29年度

市民意識アンケート調査の結果を報告します

市は、「日光市まちづくり基本条例」に基づき、市民と行政による協働のまちづくりに取り組んでいます。まちづくりとは、皆さんが「住んでよかった」「住み続けたい」と思えるような取り組み全てのことです。市政に関する市民の意識を確認し、今後も伸ばしていくべき点や課題点などの意見を取り入れるため、2年ごとに市民意識アンケート調査を実施しています。今回は全調査項目のうち、特に関心の高いと思われる項目の結果についてお知らせします。なお、調査結果の詳細は、市ホームページに掲載しています。

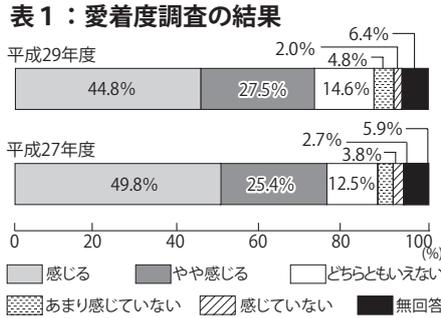
くわしくは 秘書広報課 広報広聴係 ☎(21)5135

調査の概要

- 対象…市内在住の満18歳以上の方
- 方法…郵送による記入調査(W e b 回答可)
- 期間…平成29年5月下旬～6月下旬
- 配布数…5,000名(男女各2,500名)
- 回収数…1,740件(男性807件、女性907件、性別無回答26件)
- 回収率…34.8%(男性32.3%、女性36.3%、性別無回答0.5%)

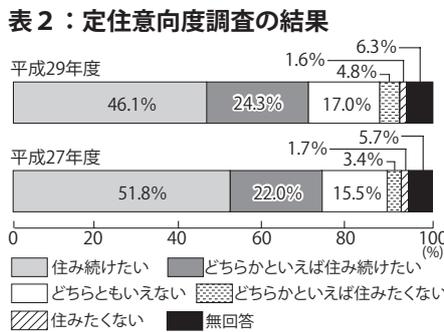
あなたは日光市に愛着を感じますか (愛着度調査結果)

「感じる」「やや感じる」を合わせて72.3%の人が日光市に愛着を感じると答えています。一方、「あまり感じていない」「感じていない」の合計は6.8%でした(表1参照)。



あなたはこれからも日光市に住み続けたいですか (定住意向度調査結果)

「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」を合わせ、70.4%の人がこれからも住み続けたいと答えています。一方、「住みたくない」「どちらかといえば住みたくない」の合計は、6.4%でした(表2参照)。



満足度調査結果

全28項目を「満足(10点)」「やや満足(5点)」「どちらともいえない(0点)」「やや不満(-5点)」「不満(-10点)」の5段階で評価してもらった合計点数を、全回答者の数で割った値です。「史跡・文化財・伝統芸能の保全」「地域の行事・近所付き合い」などの満足度が上がった一方、「鉄道・路線バスなどの交通機関の便利さ」「商工の振興」など評価が低下した項目がありました(表3参照)。

表3：満足度上位、下位の結果

上位	平成29年度	平成27年度
ごみの収集・処理	2.27	3.78
史跡・文化財・伝統芸能の保全	1.77	1.56
ごみの減量化・分別の取り組み	1.40	3.05
自然環境の豊かさ	1.37	3.12
地域の行事・近所付き合い	1.19	1.13

下位	平成29年度	平成27年度
農林水産業の振興	-0.39	-0.13
道路の整備	-0.65	-0.03
商業の振興	-1.53	-0.79
雇用対策の充実	-1.93	-1.87
鉄道・路線バスなど交通機関の便利さ	-2.14	-1.25

市民意識アンケート調査の結果から今後も伸ばしていくべき点や市のさまざまな課題点が浮かび上がりました。調査結果を踏まえ、よりよいまちづくりを目指し、市は今後も市民と行政の協働のまちづくりを推進していきます。

平成30年度から 英語教育が変わります

くわしくは
学校教育課 教育指導係 ☎ 21-5167

小学校での英語は、新学習指導要領が平成30年度から先行実施(完全実施は平成32年度から)され、5・6年生では「外国語科」としての授業が始まります。

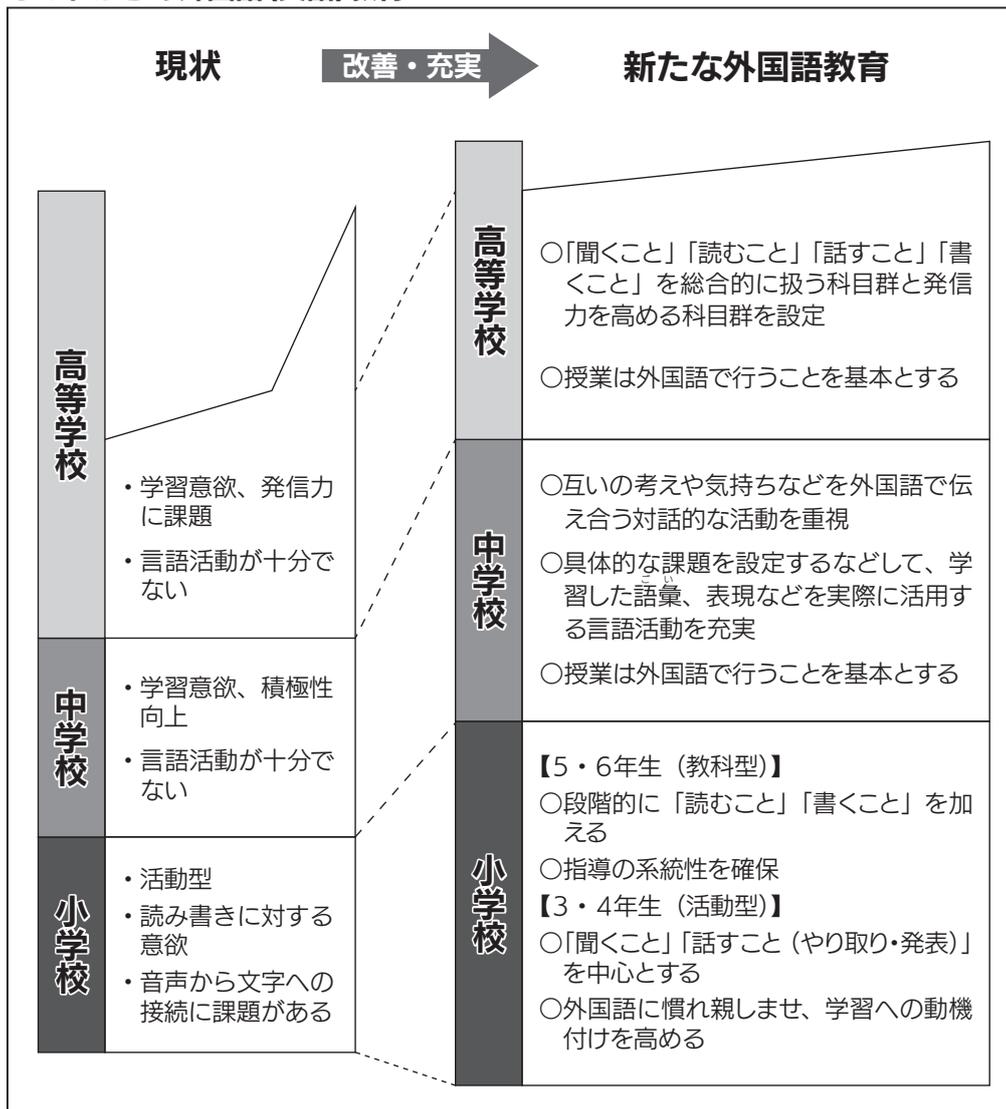
これまでの授業は「会話」中心でしたが、「読む」「書く」活動も本格的に行われます。これらの変革を受けて、市では「ジョリーフォニックス(※)」を全校で導入し、子どもたちが文字を楽しく、抵抗なく学習できるよう工夫しています。

また、パイロット校(研究実践校)において、これからの英語教育で求められる授業の在り方を研修し、市内の学校に公開しています。今後、社会のグローバル化や大学入試改革にも力強く対応できる子どもの育成に向けて、学校・教育委員会ともに取り組んでいきます。

※フォニックスとは

音声と文字をつなぐ指導法。「ジョリーフォニックス」はイギリスで多く使われ、初めて見る単語が読めるようになり、読めることで自信が付き、英語学習の楽しみが増していく、効果の高い教材と指導法です。

◎これからの外国語(英語)教育



パイロット校(大室小学校)の英語公開授業

